

計画第3期 小中一貫教育とCSの充実へ

# 小中一貫・CS 通信

NO.47 R5.2.28 幕別町教育委員会 学校教育推進員

コロナ感染の減少傾向が続く中、5月8日5類への変更、マスク着用原則の緩和・撤廃への道筋提示など、アフターコロナに向かって新たな方針が発表されています。来月の卒業式の対応等しっかりと準備しながら新たな方針に備えましょう。今年度も残り1か月。締めくくりをしっかりと行い来年度への準備を進めたいものです。

今月は、各学園の一日体験入学・中学校登校の様子を中心にお知らせします。

## 一日入学 中学校登校 各学園で実施 1月下旬～2月上旬

1月下旬から2月上旬にかけて、各学園で一日体験入学・中学校登校が行われました。その様子を紹介します。

**まくべつ学園** 今年度は12月2日(金)から2月16日(木)までの計5回の計画で、12月の初回が新型コロナウイルス感染症の学年閉鎖に伴い中止となってしまいましたが、小学校6年生がのべ4日間、中学校で朝の登校から1日を過ごし中学校の授業体験をしています。



音楽の授業ではリズムについて実技を伴った学習を、体育では中学校1年生との合同授業を行い中学校で行っている「体づくり運動」を体験しました。



「体づくり運動」では、中学生が小学生に伝授しながら学習が進みました。また、国語では中学校の単元シラバスを用いて、目標と評価について触れる授業を体験するなど、4日間を通して中学生が受ける授業を各教科2～3時間程度体験しました。1月25日(水)の中学校登校では、新入生入学説明会、部活動加入生徒による部活動説明会を行いました。

また、1月31日(火)から2月3日(金)まで、放課後の時間に部活動体験会を行いました。新入生となる6年生が4日間かけて、さまざまな部活動を体験しました。「いろいろな部をまわり、どれも興味があって、どの部にしようか迷うけど今から楽しみ」「先輩が丁寧に優しく教えてくれて、とても楽しかった」などの声がありました。



**糠内学園** 2月3日(金)、入学説明会・中学校登校が行われました。入学説明会の前に校舎をまわり、中学生の授業を見学しました。乗入授業や中学校での授業を体験していることもあり、慣れた様子でニコニコしながら先輩たちの授業の様子を参観しました。「中学校の授業を早くやりたい」という声もあり、嬉しく思いました。説明会では、最初に糠内駐在所の岡田

さんからスマホやSNSの安全な利用方法についてのお話があり、その後、学習や学校生活についての説明が続きました。一度にたくさんの説明があり大変だったと思いますが、メモをとりながら一生懸命聞こうとしている姿がとても立派でした。

**さつない学園** 2月1日(水)、午後より札内中学校で、さつない学園中学校1日登校、入学説明会を実施しました。最初にオリエンテーションとして、中学校での学習、生活について中学校教諭からの説明があり、6年生は真剣に耳を傾けていました。その後、中学校の仮の担任(A組 田口先生、B組 武内先生、C組 荒地先生)の先導で校舎巡りを行い、6時間目には、クラスごとに英語の授業を行いました。6年生は楽しみながら授業に参加し、中学校への登校に期待を膨らませている様子でした。どのクラスも英語カルタを中心とした活動を行い、大いに盛り上がりました。



**札内東学園** 2月1日(水)午後、白人小39名、札内北小49名、計88名の6年生とその保護者が一堂に会して、新入生説明会・中学校登校が開催されました。前半は主に保護者向けとして中学校の教育活動や入学前に準備するものなどの説明を行い、後半は主に児童向けとして、中学校1年生による歓迎合唱と生徒による説明を行いました。歓迎合唱は、「校歌」と「夢の世界を」の2曲を披露。生徒による説明では、事前に小学生からもらった質問や不安に思っていることなどを中心に、中学校の学習や行事などについて生徒目線で説明と質疑応答を行いました。ブース形式にし、中学生が一定の時間で入れ替わることで、全ての中学生と交流できるようにしたので、中学生と小学生が親睦を深めることができました。参観を希望する保護者には、その様子をギャラリーから参観してもらいました。終始明るく朗らかな雰囲気の中で進行することができました。



**ちゅうるい学園** 1月26日(木)、新入生体験入学・保護者説明会が忠類中学校で行われました。6年生は3時間目、中学校の千葉教諭の国語の授業を受けました。特別支援の児童も一緒にできる内容で4つの班に分かれての活動となりました。まず、日本語の文字に関わるクイズに取り組みました。雑学的な要素も取り入れ、普段何気なく使っている言葉の成り立ちを楽しみながら学びました。最後に「ちゅうがっこう」となる折句作りに挑戦。どの班も工夫を凝らして折句を完成させることができました。



## 第2回小中一貫教育・CS推進連絡会議開催 2/2

2月2日(木)、第2回小中一貫教育・CS推進連絡会議が教育委員会と5つの学園をオンラインで結び開催されました。

はじめに川瀬教育部長が教育委員会を代表して挨拶し、各学園が互いの実践を自分事として学び、学園の運営に生かしていこうと呼びかけました。

次にさつない学園が今年度の取組を発表し、小小連携授業や小中出前授業の様子、運営協議会での熟議の様子、地学協働本部の組織図イメージ等が報告されました。

ちゅうるい学園からは、総合的な学習の時間を中心とするふるさと・キャリア教育の小中一貫教育の実践と、「新しいつながり」をたくさん作って地域とともにある学校を作るCSの

実践が報告されました。ちゅうるい学園運営協議会の加藤会長は、CS はもともとあった地域のポテンシャルを生かした取組であり、忠類の教育環境が育ててきたつながりを「新しいつながり」に発展させるものと指摘、これからの課題として①より多くのつながりを作ること、②教職員の入れ替わりに左右されない持続可能なつながりを作ること、③地域と学校をつなぐコーディネータの存在を挙げました。



休憩後の質疑応答では、さつない学園に対して、小小連携授業の様子や小学校3校の受け入れの工夫等の質問が寄せられ、小小連携は1回だけだったが全学年で合同授業を行ったこと、小学校3校の受け入れについてはまさに課題でありこれから充実させていくとの回答がありました。ちゅうるい学園には、ふるさと・キャリア教育のタウンミーティングの詳しい様子や、様々なつながりを作る源泉についての質問があり、保護者・地域・事業者の方々との熟議で学びを深めている様子や、今までのつながりから新しい情報が出てきて新たなつながりが生まれてきていることなどが回答されました。

白井副会長の閉会挨拶でも触れられていましたが、今年度小中一貫教育とCSの取組が大きく進みました。各学園それぞれの状況も得意とするところも違いますが、それぞれの工夫を学び合って、さらに歩みを進めていきたいものです。来年度に向けて、画面共有等の運営上の課題解決と会議内容のいっそうの充実を図っていききたいと思います。

## 1年を締めくくる運営協議会も次々開催

**まくべつ学園** 2月15日(水)に第3回まくべつ学園学校運営協議会を開催しました。令和4年度の学校運営協議会およびまくべつ学園の事業報告を行い、令和5年度の学校運営協議会の事業計画案について了承を得ました。次いで、各学校(幕別小・幕別中)の学校評価の報告も行い、「地域とともに子どもを育てていくことが大切になる」ことを確認しました。



その後、前回に引き続き「まくべつ学園(小・中)の子ども達の育ちにむけて、私たちに何ができるのか」をテーマに、ワークショップ形式で意見交流(熟議)をしました。今回は、「“まくべつの自慢”とは?」から話し合いを進め、「まくべつのよさを知り、自慢できる子ども達を育てるためにできることは?」について議論を深めました。私たちの想像以上に



幕別には多くの自慢ができるものがあることを再確認できたとともに、「それぞれの自慢は、〇〇さんに聞くといい」「この取組は〇〇さんに依頼するといい」などと、まくべつ自慢を機にまくべつの「ひと・こと・もの」の話題で大いに盛り上がりました。議論を深めていく中で、「地域全体で子どもを支え育てるために、私たち委員がそれぞれもっているネットワークを是非生かしていきたいですね」といった意見も出されました。

**糠内学園** 1月30日(月)に第4回糠内学園学校運営協議会が開かれました。学園の3つの部会の活動報告、学園3校の教育活動報告、学園長の全体総括が示され了承されました。さらに「子ども達に身につけさせたい力」と「大人として支援できそうなこと」をテーマに熟議が行われました。いろいろな意見が出されましたが、コミュニケーション力の育成が大事とまとめられました。ここで、出された貴重な意見も参考にして来年度の経営方針案が立てられ、次回検討される予定です。



**さつない学園** 1月30日(月)に第3回さつない学園学校運営協議会が開かれました。今年度の小中一貫教育の活動と、CSの取組として学校サポーター6個人1団体の登録が報告されました。その後、塚本委員から学校運営協議会の取組の実際について、動画を使った情報提供があり、それを受けて意見交流を行いました。それぞれの思いを出し合う交流となりました。これらの論議が来年度の経営方針に生かされることとなります。

**札内東学園** 1月24日(火)に第4回札内東学園学校運営協議会を開催しています。初めに学園3校の今年度の教育活動と学園評価の結果が報告され、それを受けて次年度の目指す子ども像のキーワードとして「考動力」が示されました。いずれも了承され、その後、「子どもが考えて動くために学校・家庭・地域で何ができるか」をテーマに熟議を行いました。子どもに任せることを多くする、子どもが地域と関わる仕組みづくりを進めるなど意見が出されました。これらの意見を参考に経営方針案が作られ、次回の学校運営協議会で検討されることになっています。



**ちゅうるい学園** ちゅうるい学園では、子ども達の熟議の結果を受けて、学校運営協議会で熟議が行われています。内容は来月号以降の紙面でお知らせします。

## 奄美大島の小中学校とのオンライン交流 糠内学園糠内中学校



1月26日(木)、2回目のオンライン交流会が開かれました。お相手は、奄美大島の瀬戸内町にある諸鈍小中学校。前回は暖かい時期だったので、極寒のこの時期は糠内からの情報発信を中心に進められ、雪一面のグラウンドの景色と屋根から伸びる長いつららが映し出されると大きな歓声があがりました。前の週にプラスの26度まで気温が上がったとの先方の話に、糠内では前日の最低気温がマイナス26度だったと返す場面もありました。糠内中学校からは「糠内に道の駅を作ってみた」の提案

プレゼンが紹介され、ユーモアを交え熊や寒さもふんだんにアピールして発表していました。先方からの質問コーナーもこちらからの北海道方言クイズも大いに盛り上がりました。交流も2回目となり、ずいぶんと打ち解け、交流が深まっていると感じるひと時でした。

## 札内南小学校への乗入授業 さつない学園

1月25日から27日にかけて、札内南小6学年に国語科・体育科の出前授業を実施いたしました。今年度まなび部会で、国語は「読む・書く力」が課題であり基礎作りが重要課題であると確認されていまして、「言葉と私たち」という単元で国語科教諭の澤田先



生、武内先生が札内南小6年1組・2組・3組に入り乗入授業を行いました。最初は緊張していた子ども達も次第に打ち解け笑顔を見せるようになりました。発問に対して真剣に考える姿が立派で春からの中学校生活を楽しみにしています。

6年生のスケート授業には、体育教諭である高木先生が授業のサポートとして参加しました。中級コースの子ども達は、高木先生から滑り方等の専門的なアドバイスを受け、積極的に授業に取り組んでいました。

今後も理科や算数・数学で乗入授業を予定しています。

